



第 47 号

目 次

論 文

『大美聯邦志略』の翻刻……………杉 井 六 郎 (1)

本願寺の内衆下間氏と手能……………籠 谷 真智子 (44)
——真宗文化史的観点から——

明末清初閩僧東渡攷……………林 田 芳 雄 (61)

草堂寺闊端太子令旨碑の訳注……………杉 山 正 明 (87)

研究ノート

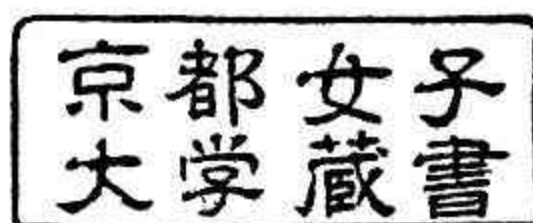
古代日本における高麗の残像……………菅 澤 庸 子 (107)
——渤海・背奈王氏を通して——

唐玄宗「御製御書」碑文の刻字……………竹 中 愛 語 (115)

批評・紹介

山田信夫著『北アジア遊牧民族史研究』……………乾 ゆかり (123)

集 報 …………… (127)



1 9 9 0

京 都 女 子 大 学 史 学 会

史 学

唐玄宗「御製御書」碑文の刻字

竹中愛語

モンゴル人民共和国に現在も建っている突厥の關特勤碑文の漢文面には、唐玄宗の「御製御書」の銘文が刻されている^①。本碑文は、復興突厥第三代・苾伽可汗(Bilge-Qaghan)の弟・關特勤(Kul-Tegin)が亡くなった時、故人の功績を賛えるために立石された。立石年は開元二十(七三二)年で、碑文には漢文と突厥文が刻されている。そのうち、問題の玄宗「御製御書」漢文は西面に刻され、突厥文は残る北面・東面・南面・北東角・南東角・南西角、さらに西面の「御製御書」という文字の下に刻されている。

一方、中国に現在ものこっている玄宗の「御製御書」と言われる碑文の中で最も有名なものは、陝西省の西安碑林の石台孝経と山東省の泰山山壁に刻されている紀泰山銘である。両碑刻は、玄宗「御製御書」の代表的作品としてこれまで書道家などによってしばしば言及されてきた^②。特に石台孝経は、玄宗自身が実際に筆を取って全文を書いたのかどうか疑問視されてきた^③。

翻って、關特勤碑文はこれまでのところ突厥文を研究対象にすることが多く漢文面の方にはあまり注意が払われていないのが実状である。そのためか、言及されることの多かった中国内地の石台孝経・紀泰山銘の刻字と關特勤碑文漢文面の刻字とを、同じ玄宗の「御製御書」という視点から相互比較してみることはなかったようである。ただ一人、清の盛昱が關特勤碑文漢文面を述べる際に石台孝経に言及してはいるものの、やはり両者の文字について相互比較することはなかった。

筆者は古代突厥碑文研究を志すうち、關特勤碑文漢文面の刻字が、中国本土にのこる有名な石台孝経・紀泰山銘の刻字に著しく似かよっていることに気付いた。そこで本稿では、この三つの碑文の文字の比較だけに焦点を絞り、極めて基礎的なデータのみを呈示する。この作業によって、今後、中国本土にのこる複数の玄宗「御製御書」碑文を検討する上で新しいデータを提供することになり、或いは逆に、中国本土の玄宗「御製御書」碑文との比較によって關特勤

碑文研究にも別の新しい視点を与えることになれば幸いである。

なお、碑文の文字の呈示に際しては、關特勤碑文漢文面を〈石〉、石台孝経を〈石〉、紀泰山銘を〈太〉で示す。使用する刻字の写真は、以下の拓本・拓影に基づく。

關特勤碑文漢文面…京都大学文学部東洋史研究室所蔵の關特勤碑文漢文面の拓本

石台孝経…神田喜一郎・西川寧監修『唐玄宗 石台孝経 (上・中・下)』二玄社、一九八一—一九八八年。

紀泰山銘…中田勇次郎編『中国書道全集』第四卷 唐Ⅱ・五代、平凡社、一九八七年。観峰コレクション 図録第二号『唐代の碑刻』文字文化研究所、昭和六三年。

註

① 玄宗が關特勤碑文の漢文面を撰文・書写したことは『旧唐書』『新唐書』『冊府元龜』に見える。

(a) 『旧唐書』卷一九四・突厥伝

「開元」二十年關特勤死詔金吾將軍張去逸都官郎中呂向齊鑒書入蕃弔祭并為立碑上自為立碑上自為碑文(開元二十(七三二)年、關特勤が死んだ。金吾將軍の張去逸と都官郎中の呂向に詔して、天子の印を押した詔書を持って突厥に行き故人の靈を弔いまつり、ならびに故人のために碑を立てさせた。玄宗自らが碑文をつくった。)」

(b) 『新唐書』卷二一五・突厥伝

「開元」十九年關特勤死使金吾將軍張去逸都官郎中呂向奉鑒詔弔祭帝為刻辭于碑(開元十九(七三二)年、關特勤が死んだ。金吾將軍の張去逸と都官郎中の呂向に天子の印を押した詔書を持って故人の靈を弔いまつらせた。玄宗は故人のために銘文を碑文に刻した。)」

(c) 『冊府元龜』卷九七五・外臣部・褒異二

「開元十九年」四月辛巳突厥可汗弟關特勤卒帝降書弔之曰：是年十一月詔金吾將軍張去逸都官郎中呂向齊鑒書入戎弔并為

立碑文帝自為碑文（開元十九年四月辛巳、突厥可汗の弟闕特勤が亡くなったので、玄宗は詔書を下してこれを弔って言った。……この年十一月、金吾將軍の張去逸と都官郎中の呂向に詔して、天子の印を押した詔書を持って突厥に行き故人を弔い、ならびに故人のために碑文を立てさせた。玄宗自らが碑文をつかった。）傍線は筆者

② ビルゲ・カガンは、毗伽可汗（『旧唐書』『新唐書』など）と表記されることもあるが、闕特勤碑文漢文面では「苾伽可汗」と刻されているので、本稿でも苾伽可汗とする。

③ 例えば、藤原楚水『訳注語石』(上)『省心書房、一九七五年。』『中国書道全集』第四卷 唐Ⅱ・五代、『唐代の碑刻』など。

④ 石台孝経の玄宗書写を疑問視するものは以下のとおり。

(a) 伏見冲敬「76—79 唐 石台孝経 唐玄宗書」『西安碑林』講談社、昭和四十一年、巻末の解説の一五頁中段。

「この孝経の本文と注は、古くから玄宗の「御書」といわれているが、実際に皇帝自身が筆をとって全文書いたかどうか、疑問である。李齊古の上表にも「義展審詞。書題御翰」とあるが、これは、本文が皇帝の著作であり、題字が皇太子の筆であるというのであろう。最後の批答は玄宗の宸翰であらうが、これと本文とは用筆の特徴がちがうように思う。西川博士も異筆説であることをうかがった。」

(b) 西林昭二「唐 玄宗 石台孝経」『唐 玄宗 石台孝経』(上)二二八頁。

「ところで、先人の著録では、本文も注も玄宗の自書として疑いをはさまない。しかし、伏見冲敬先生は、実際に皇帝自身が筆をとって書いたかどうか、疑問であるとされ、李齊古の上表にも「義展審詞。書題御翰」とあって、本文が皇帝の著作で、題字が皇太子の筆であるという意であらうとみて、批答と用筆の特徴がちがう点を指摘され、なお西川博士も異筆説をとっておられると附言されている。私には当否を知りたい。ただ、王世貞は「紀太山銘、唐開元帝の製および手書なり。あい伝えて燕許その辭を修し、韓史その筆を潤す」とす。故をもって文は

頗る雅馴にして猥弱ならず、隸法は小しく東京を變ずといえども、最も穢勁たりて、古意を饒にす。云々」といって、太山銘は、韓沢木・史惟則が玄宗の手書を潤色した、という伝承を是としているから、これと同様のことがこの碑にも行なわれたと考えられなくはない。史惟則の大智禪師碑、あるいは梁昇卿の御史台精舍碑銘は、結構用筆ともことによく似ている。もとより玄宗の隸書をよくしたことは信じてよからうが、楊貴妃を得た悦楽の日々に、こうした大作を、終始貫注して書きえたらうかとの疑いも生じ、あるいは御注もだれかの潤色を経ていると考えることもできよう。」

(c) 塚田康信「石台孝経碑の研究」『福岡教育大学紀要』(第五分冊 芸術・保健体育・家政・技術科編)二四号、昭和四九年、四〇頁。

「孝経の経文と注文は、古くから玄宗の御書といわれているが、実際には本文の一部や批答などと他の部分との間に用筆の相違があつて、皇帝自身が全文を書いたかどうか、ということについては、問題が残されている。」

(d) 長尾秀則「玄宗「石台孝経」成立考—建碑の理由を中心として—」『漢文学会々報』第三二輯、昭和六一年、三七頁。

「『石台孝経』の成立には、玄宗自筆か他筆かの疑義があり、序・本文・注・批答についての細密な調査など、今後の検討が必要であること。」

⑤ 盛昱『意園文略』卷一・闕特勤碑跋

「猶近古字体峻整与石台孝経同真明皇書（闕特勤碑文漢文面は、近い昔の字体のように美しく整っていて、石台孝経と同じである。まことに唐玄宗の書である。）」

(付記)

① 石台孝経・第四面の批答は行書体で書写されているので、比較の対象ではない。

② 紀太山銘は適当な拓本・拓影を利用できなかったため、刻字の行数は分らなかった。従って、表の紀太山銘の刻字行数は省略する。

刻 字 一 覧 表

刻 字	關	石	刻 字	關	石	刻 字	關	石	刻 字	關	石
(1) 先	11	② - 8	(28) 生	7	② - 13	(55) 則	2	③ - 5	(82) 文	3	④ - 4
(2) 是	1	② - 16	(29) 此	7	③ - 10	(56) 別	1	① - 8	(83) 而	6	④ - 6
(3) 於	3	① - 3	(30) 也	7	③ - 2	(57) 祖	6	① - 13	(84) 身	6	① - 2
(4) 其	1	③ - 4	(31) 發	10	① - 8	(58) 子	9	① - 2	(85) 旧	2	① - 4
(5) 可	9	① - 1	(32) 揮	10	① - 8	(59) 孰	11	③ - 12	(86) 祿	6	② - 4
(6) 天	1	① - 14	(33) 令	5	③ - 14	(60) 長	12	① - 15	(87) 曾	6	② - 14
(7) 人	1	② - 5	(34) 今	5	① - 7	(61) 保	12	① - 16	(88) 愛	7	② - 3
(8) 聞	5	① - 1	(35) 作	4	② - 13	(62) 何	7	① - 11	(89) 教	3	② - 8
(9) 朕	4	① - 1	(36) 能	7	② - 4	(63) 且	9	① - 7	(90) 虞	4	① - 6
(10) 高	12	① - 15	(37) 七	3	④ - 2	(64) 略	7	① - 1	(91) 次	5	① - 6
(11) 無	4	③ - 14	(38) 載	4	① - 8	(65) 為	4	② - 15	(92) 矣	2	④ - 7
(12) 垂	12	① - 8	(39) 道	11	① - 5	(66) 義	9	① - 5	(93) 遠	5	① - 4
(13) 不	7	③ - 15	(40) 遐	10	④ - 3	(67) 親	11	① - 13	(94) 友	7	③ - 15
(14) 以	7	① - 1	(41) 行	6	① - 12	(68) 斯	6	① - 3	(95) 八	3	② - 10
(15) 宗	3	③ - 18	(42) 賴	5	① - 14	(69) 歟	5	① - 2	(96) 成	7	① - 5
(16) 故	7	② - 12	(43) 王	11	② - 1	(70) 猶	9	③ - 6	(97) 豈	6	③-8-注
(17) 之	2	② - 1	(44) 君	5	① - 12	(71) 景	8	① - 3	(98) 首	2	②-7-注
(18) 地	6	③ - 17	(45) 然	7	② - 4	(72) 者	1	① - 4	(99) 蒼	1	③-12-注
(19) 有	8	③ - 15	(46) 終	3	② - 6	(73) 大	1	① - 3	(100) 賢	7	④-5-注
(20) 德	6	③ - 10	(47) 受	8	① - 11	(74) 特	5	① - 7	(101) 情	10	④-5-注
(21) 上	6	③ - 17	(48) 爾	4	② - 10	(75) 殊	11	① - 8	(102) 克	11	④-1-注
(22) 父	9	① - 12	(49) 国	11	① - 2	(76) 相	1	① - 5	(103) 榮	3	②-13-注
(23) 同	1	② - 3	(50) 弟	9	③ - 9	(77) 甘	2	④ - 4	(104) 變	3	④-6-注
(24) 于	11	① - 3	(51) 用	10	① - 8	(78) 順	11	② - 14	(105) 使	4	①-14-注
(25) 太	3		(52) 孝	5	② - 15	(79) 北	7	④ - 1	(106) 施	6	②-8-注
(26) 修	4		(53) 兄	9	③ - 12	(80) 中	2	④ - 3	(107) 合	1	③-3-注
(27) 尽	8	① - 13	(54) 仁	6	① - 1	(81) 下	6	③ - 6	(108) 光	10	①-12-注

① (1)～(24)：關特勤碑文漢文面，石台孝經，紀太山銘の比較。

(25)～(26)：關特勤碑文漢文面，紀太山銘の比較。

(27)～(108)：關特勤碑文漢文面，石台孝經（ただし，(97)～(108)は石台孝經の注から引用）の比較。

② 關特勤碑文漢文面の刻字は，行数で示す。〔例〕(1) 先 11行目→11。

③ 石台孝經の刻字は，第1面を①，第2面を②，第3面を③，第4面を④として，各面の行数とともに示す。

〔例〕(2) 是 第2面の16行目→②-16，(97) 豈 第3面の8行目の注→③-8-注。

